



～ 夏模様と子どもたちの笑顔！ ～

校長 佐藤 康晴

今月の27日に、平年より22日も早く、関東地方の梅雨明けが発表されました。

例年は、梅雨の期間が40日程あるそうなのですが、今年は、梅雨の期間が21日と短く、梅雨明け宣言の前から、連日35度以上の日が続くなど、まるで夏真っ盛りの盛夏の様です。一気に暑くなり、体調管理が難しい中ですが、保護者並びに地域の皆様におかれましてはいかがお過ごしでしょうか。

学校の中を見渡してみますと、周りの樹木も、夏の日差しの下で青々と葉を広げ、子どもたちが育てている朝顔やマリーゴールド、オクラ、トマト、胡瓜、ピーマンなどの夏野菜やヘチマなどが、真夏の日を浴びてすくすくと大きく成長してきています。

この間、満面の笑顔の子どもたちが、収穫したトマトや胡瓜を大事そうに誇らしげに手をもって「校長先生！見てみて！」と声をかけてきて、それぞれの学習の成果をたくさん教えてくれました。

子どもたちの嬉しそうな、きらきらした眼差しがとても素敵でした。

植物やメダカ、昆虫などを観察したり、育てたりすることは、「豊かな心の育成」・「命を大切にすること」等の学びへつながっています。

自分の花、稲、野菜栽培、学級で育てているメダカや昆虫など、子どもたち一人ひとりが、水やりや土おこし・追肥、餌やりなどをし、主体的に関わることで、愛でる気持ちが育まれます。それぞれの成長に関わることで、興味や関心を深め「どうして？」「どうしたら？」などの思いが探究心を掘り起こしていき、そうして大切に想う心、命あるものへの優しさが育まれていくのではないのでしょうか。

この間、夏の強い日差しに照らされ高温になった友だちの鉢植えに、自主的に、何度もなんども水をあげて世話をしている子どもの姿を見かけました。私はその姿を見て、子どもたちの心の中や行動に、「自分で考え、進んで行動する子」「互いに支え合い、友だちを大切にすること」の思いが育っているな、と切に感じました。このような社会状況の中にあっても、子どもたちは、ぶれることなく、今目の前にある小さな命を大切に、愛情を注いでいます。

学校は、保護者並びに地域の皆様とともに、これからも、子どもたちの「豊かな心の育成」・「命を大切にすること」を育んでいきたいと思えます。

そして、近い将来、この子どもたちが、中山・寺山・上山の町はもとより横浜の未来を創造して欲しいと願っています。これからもどうぞよろしく願いいたします。